

福岡県福祉サービス第三者評価の結果

【第三者評価機関】

名 称	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構長崎県事務所		
所 在 地	長崎県長崎市宝町 5-5 HAC ビル内		
T E L	095-841-8008	F A X	095-841-8018
評価調査者 登録番号	19-a0058 、 19-b00146 19-b00156		

【福祉サービス施設・事業所基本情報】

◆経営法人・設置主体

法 人 名 称	しゃかいふくしほうじん そうわかい		
	社会福祉法人 相和会		
法 人 の 代 表 者 名	りじちよう いちゆう たくよし	設 立 年 月 日	平成10年11月10日
	理事長 井中 卓良		

◆施設・事業所

施 設 名 称	かとうほいくえん	施 設 種 別	保育所
	かとう保育園		
施 設 所 在 地	〒811-3404 福岡県宗像市城西ヶ丘6丁目16番地		
施 設 長 名	くまがい ゆかり	開 設 年 月 日	平成26年4月1日
	熊谷 由香里		
T E L	0940-35-6655	F A X	0940-35-6656
E メ ー ル ア ド レ ス	kato@sowakai.or.jp		
ホ ー ム ペ ー ジ ア ド レ ス	https://kato.sowakai.or.jp/		
定 員 (利用人数)	100名(現員 122名) ※該当を○で囲む		
職 員 数	常勤職員： 18名	非常勤職員： 13名	
専 門 職 員	園長 1名	主任保育士 1名	保育士 21名
	保育補助 2名	事務員 1名	栄養士 2名
	調理師 3名	用務員 1名	
施 設 ・ 設 備	保育室 6室	一時預かり室・遊戯室各 1室	調理室 1室

の 概 要	調乳室 1 室	事務室 1 室	幼児トイレ 3 か所
-------	---------	---------	------------

◆施設・事業所の理念・基本方針

理 念	<p><法人理念> 小さな手 未来へつなぐ 感謝の心</p> <p><保育理念> すべての子は伸びる力をもっている その力が自然に、十分に伸びる保育を個と集団の中で行う</p>
基 本 方 針	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 一人一人の子どもを十分に愛し、子どもの思いを受けとめ、心豊かな子どもを育てます ◇ 安全で安心して主体的な園生活ができるような、環境の工夫と整備充実を図ります ◇ 保護者の思いを汲み取りながら、家庭と一体となり子どもの健全な心身の発達を目指します ◇ 保育園としての専門性をいかし、地域の子育てニーズに合った取り組みを行います

◆施設・事業所の特徴的な取組

➤ 法人姉妹園との関わり。
 法人園長会では、施設運営、保育方針と現状把握を毎月おこなっている。
 主任会では、保育、計画など業務全体の現状と課題を定期的に確認している。
 新任保育士研修、法人公開保育をとおして、職員同士の交流、保育について語れる場がある。
 課題解決のツールとなっている。

➤ ICT システムを利用した仕事の効率化をしている。
 園と保護者のコミュニケーション、園の情報管理機能、登降園記録、午睡チェックなど一括管理ができる。ドキュメンテーションを通して子どもの育ちを保護者や職員と共有できる。
 保育記録等に関して、保育士の業務削減となっている。

➤ 地域に根ざした保育をしている。
 芋苗植えに始まり、田植え、稲刈り、七夕の笹飾りなど地域の方に協力して頂いて、活動を展開している。勤労感謝の日には、子どもたち手作りの「カレンダー」をプレゼントして「感謝の気持ち」を伝え、喜ばれている。
 また、いきいき出前コンサート、ラグビー教室、交通安全教室など、市役所をとおして地域貢献プログラムに参加している。
 また、河東小学校に隣接しており、コロナ禍でも可能な形で交流を継続している。

◆第三者評価の受審状況

評価実施期間	契 約 日	令和 5年 5月 11日
	訪 問 調 査 日	令和 5年 8月 28日、29日
	評価結果確定日	令和 5年 10月 30日
受審回数（前回の受審時期）	今回の受審：	1 回目

【評価結果】

1 総 評

(1) 特に評価の高い点

■ 子どもの主体性、伸びる力を育む保育

法人は、保育理念に「すべての子は伸びる力をもっている」と掲げ、その無限の可能性を子どもたち自身で開花させていくことを目指している。

園では、子ども一人ひとりを尊重する姿勢を根幹に、主体的な保育である“流れる保育”を実践している。一人ひとりが好きな時間に食事をとったり、朝の会で職員が、子どもたちに「やりたいこと」を聞いて一日の活動を決めるなど、自主性を育てている。

また、発達に合わせて、無理なく基本的な生活習慣を習得できるように援助するとともに、3歳児からは体操教室、4歳児からは英語教室、和太鼓を取り入れるなど特色ある保育を展開していることが確認できる。

調査時の見学においても、子どもの様子に落ち着きと満たされた明るい表情が見てとれる。日々の職員の関わりによって育まれる子どもの主体的な活動は、園の特長といえる。

■ 安全で楽しく、心温まる保育環境の工夫

保育方針に、“安全で楽しい環境”と明記しており、職員は保育環境のテキストを参考に等、全体で保育環境の整備に注力している。園内各所に大小の窓を設け、保育室にも隣の部屋が見通せる窓がある等、特色ある空間となっている。トイレ便座に座った時にも、小窓から隣の部屋の置物人形がトイレ側を向くよう配置しており、子どもが喜び、ホッとできる環境づくりを心掛けていることが窺える。

また、職員による手作り玩具が多く、小さなペットボトルの中に膨らむボールを入れて、振って感触を楽しんでいる他、牛乳パックで作ったコの字型の椅子の裏面には、フェルトを貼ったり、小さくカットした人工芝やスポンジを床に置いたりして、足の裏の感触を楽しめるように工夫している。

職員のさまざまな工夫により、随所にみえる“子どもの目線”に合わせた保育環境は特筆すべき点といえる。

■ 理念に基づいた園長の指導力

園長は、法人理念“小さな手 未来へつなぐ 感謝の心”にある“ありがとう おかげさまで”等の感謝する心を育てることが保育の根底にあると捉えており、今年度の4月から、「私たちが大切にしていること」を全職員に配付し、職員会議でその思いを表明している。

また、職員一人ひとりの個性を生かすことに焦点を当て、やさしく丁寧に語り掛け保育方法や子どもの気持ちを汲み取ることを助言する姿勢は、職員のモチベーションアップに繋がっている。

更に、園長自ら、法人公開保育で姉妹園との共同研修を申し出て実行しており、姉妹園と協働して質の高い保育の実践を目指していることがわかる。

市保育協会と行政との連携による市の子育て・教育サイトで各園を紹介する動画を配信する中で、園の特色が遺憾なく発揮できており、園長が主任や職員と一緒に楽しく取り組んでいることを伝えている。

園長が理念に基づいて職員に真摯に向き合い、指導力を発揮していることは優れた点である。

■ 園長・主任が支える職員のチームワーク力

園長は職員会議で“お互いを認め合い支え合うこと”の大切さを伝えている。

職員間は風通し良く、フリーの職員も各クラスにスムーズに入り効果的にサポートしており、誰にでも声を掛けやすい関係である。就職活動の際、保育園を複数見学した中で、一番穏やかな職員間の雰囲気の魅力を感じ、就職を決定した職員もいる程である。

園長は、本園の主任保育士を経て現職に就いていることもあり、園内の各種会議に積極的に参加し、全職員と接している。また、主任も園全体のまとめ役を担い、記録内容や書き方について指導するなど要となっており、その実直な姿勢で職員からの信頼も厚い。

園長・主任が笑顔で支える、職員の団結したチームワーク力は高く評価できる。

(2) 改善を求められる点

■ 働きやすい職場づくり

園長は“業務棚卸”を掲げ、業務を洗い出し見直すことで、簡素化により必要な業務をより手厚く行えるよう進めている。日、週、月、年と分けて、行うことの見直し、行う順番、優先順位等を検討することで、職員の業務の軽減に繋がるなど、働き方の意識を変換していく方針である。

職員の休憩は面談室を利用しており、ノンコンタクトタイムを取るよう促しているものの、園長は職員に浸透していないことが気になっており、体制等を検討中である。

また、現在、職員数は充足しているものの、質の高い保育を行うために更に数人の確保が必要であると考えており、母体法人と検討している。

更なる、働きやすい職場づくりに向けた取組が待たれる。

■ 保育の質の向上に向けた人材育成

園長には、毎年、第一回目の職員面談で目標・課題の明確化、中間面談で進捗状況の確認、最終面談で課題の達成状況の把握、次年度の目標設定という PDCA サイクルの構想がある。

園長は、年 2 回の職員面談実施を理想としているが、現状は機会を捉えて口頭での実施に留まっているため、今後は期待する職員像の実現に向けて個人目標やビジョンを書面にて設定し、目標達成期限や進捗状況を把握する仕組みづくりが望まれる。

また、コロナ禍でコドモンカレッジ（コドモンアプリ内の研修動画）にて、職員が自主的に学ぶ仕組みを整えていることは確認できる。今後は現状の課題を内部研修にて取り上げ、ヒヤリハットと事故の分別について周知を図り、理解を深めるなど、更なる保育の質の向上に向けた教育・研修の機会を確保していくことが望まれる。

■ 更なる地域とのつながり

園では、地域住民の協力のもと、芋苗植えやコロナ禍前は田植えから稲の収穫までの活動を展開している。

散歩時はグランドゴルフで集う地域の高齢者と挨拶を交わしている他、近隣の高齢者施設の訪問もコロナの感染状況をみながら再開する予定である

今後は、コロナ禍で途絶えている地域で和太鼓を披露する機会や地域の避難訓練に参加したいとも考えている。

地区に初めて開園した保育園として、今後も地域住民と触れ合う機会を多く設け、交流を深めていくことで、子どもたちが保育園という枠を超えて社会とのつながりを持ち、新たな経験ができる機会となることに期待したい。

2 第三者評価の結果に対する事業者のコメント

今回初めて第三者評価を受審することになり「子どもたちの未来がよくなるために」を目標に私たちの保育をふりかえることができました。

法人では、遊びは学び ～遊びこむ姿が生まれる子ども中心の保育を目指して～「自分で考えて行動する子どもの育成」に取り組んでいます。そこで、開園して 10 年目、自園の保育をふりかえるために姉妹園と一緒に研修をうけたり、自分の保育室に手作り玩具を作成したりして、子どもたちが主体的に遊べる環境を整えるようになってきました。保育士が今まで以上に「子ども中心」に考えられるようになってきました。

子どもたちが安全で安心して生活できるように、子どもたちに寄り添う保育、子どもが安全で安心して過ごせる環境づくり、職員間のチームワークの再構築をしていきたいと思っています。ここまで支えてくださった、法人の皆様、福祉総合評価機構の皆様に感謝申し上げます。

3 共通評価基準及び個別評価基準の評価項目による第三者評価結果（別添）

【保育所・評価項目による評価結果】

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

I-1-1 (1) 理念、基本方針が確立・周知されている。

項 目		評価	コメント
1	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	<p>法人各園で「小さな手 未来へつなぐ 感謝の心」という共通の理念を掲げ、ホームページ、パンフレット、園だより等に記載している。</p> <p>園長は、職員会議での理念の読み合わせにとどまらず、保育場面での具体例と結び付けて話題にしており、理念の具現化に努めている。</p> <p>更に、年度当初の職員会議で、理念や基本方針をもとにした想いを「私たちが大切にしていること」にて表明し、職員への周知を図っている。</p> <p>保育目標の評価反省を職員の週案に落とし込んでおり、理念・基本方針に沿った保育活動が行われているかは、常時クラス毎に確認し合っている。</p> <p>園だより冒頭には毎月法人理念、保育理念、保育目標を記載し、保護者への周知を図っている。コロナ禍前は4月保護者会で役員に話しており、今年度は9月保護者会を開催し理念や方針を語る予定である。</p> <p>理念、基本方針を明文化し、職員や保護者に周知を図るとともに、日々の保育における具現化が確認できることは優れた点である。</p>

I-2 経営状況の把握

I-2-1 (1) 経営環境の変化等に適切に対応している。

2	I-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b	<p>園長は、毎月の法人園長会議において事業経営をとりまく社会福祉事業全体の動向について協議している。</p> <p>市社会福祉法人連絡会総会にも参加し、令和5年度宗像市児童福祉計画の他、高齢者・障害福祉分野も含む事業計画等情報を得ている。特に高齢者介護の分野においては、国の政策の流れを汲むモデル都市となっているため、保育運営においても今後の参考としている。園長は長年の保育実績からなる優れた観察力と正確で綿密な分析力、保育への探求心に長けており、国の保育に対する方針、流れ、県や市の政策等を理解し把握・分析に努めていることが見てとれる。</p>
3	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	b	<p>園長は、経営状況環境の分析をより深めるために、監査や第三者評価受審を裏付けとして構築していきたいとの考えにある。</p> <p>経営におけるコスト分析等、法人本部や会計事務所から助言を受けることで現状を把握し、課題を抽出している。</p> <p>経営課題については、職員会議等で主に園長会であがった内容を報告している。無駄のない電気、水道等の使用についてなど具体的な取組を進めている。</p>

I-3 事業計画の策定

I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。				
4	I-3-(1)-①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	園長は、今回の第三者評価受審を機に令和5年度からの中・長期計画を作成している。職員会議で説明した折には、これまで園内で課題としていた内容であるため、職員の理解は早く、課題が混とんとしていたところが明確になっている。 今回は、園長、主任が主となり計画の策定を進めているところであり、今後は、副主任や職員が参画する体制が必要であると考えている。更なる取組に期待したい。
5	I-3-(1)-②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	中・長期計画は、今年度から数年先を見通した継続的な計画であり、毎年度評価見直しを行う予定である。 それを踏まえて、事業計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されており、数値目標や担当者、具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっていることが確認できる。 中・長期計画を踏まえた単年度の計画を作成していることは特筆すべき点である。
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。				
6	I-3-(2)-①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	職員は事業計画を明文化することで、いつでも確認が取れるとともに、数値化により、見直しも持てるため、共通の意識を持ち計画遂行に繋がっていることが見てとれる。 ただし、今年度は園長が主となり作成しているため、今後は、職員参画の下で計画を策定していくことが望まれる。今後の取組に期待したい。
7	I-3-(2)-②	事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b	事業計画の主な内容を保護者会、保護者役員会で説明している。 ただし、配付には至っておらず、今後は、年度末、進級時のおたよりにその内容を取り入れていく方向である。更なる事業計画の保護者に対する周知、理解における検討・取組が望まれる。

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。				
8	I-4-(1)-①	保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	園では、保護者の園評価の他、職員の園評価を実施している。 園長は、今回の第三者評価受審にあたって、評価項目毎にどの会議でどのように検討するか計画し、全職員が参画し進めており、第三者評価にかかる自己評価を保育の質の向上に向けた機会と捉え実施していることがわかる。 また、月2回行う職員会議には、職員が交代で出席し同じ内容を伝達することで、全職員に周知を図ることを徹底している。 更に、法人内の公開保育の場で、PDCAサイクルに基づいた保育について各園の取組状況を確認し、参考にすることができることも高く評価できる。 保育の質の向上に向けた取組を組織的に行っていることは、園の特長である。
9	I-4-(1)-②	評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b	現段階では、現状の課題に対して各種会議での検討を割り振っており、主任が取りまとめを担っている。第三者評価も評価結果を受けてからの取組が大切であり、必要に応じて委員会組織を設置することも今後のビジョンにある。 保護者の意見は保護者会内で解決し、個人の申し出は各個人に返答している。 評価結果に基づく改善の取組として、流れる保育の充実とNGワード集の作成を検討していく方針である。現マニュアルの活用・見直しも今後の課題として検討を考えている。今後の取組に期待したい。

II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。			
10	II-1-(1)-①	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a 園長は、年度当初運営方針を発表する際に役割と責任を表明している。 園務分担表・職務分担表にて、園長の役割と責任を含む職務分掌等について文書化されている。また、園長不在時の代行職務遂行についても明確化されている。 園長は、各種会議の席で自らの役割と責任について周知を図っている。 園だよりでの表明に文責を記載することが望まれるものの、総合的に園長の役割が確立していることは高く評価できる。
11	II-1-(1)-②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a 園長は、市や法人の園長会を初めとする各種会議、オンラインで行われている福岡県働き方改革セミナーに参加している。 また、保育ナビ等のメールマガジン、保育機関紙、厚労省ホームページ等で遵守すべき法令を把握している。 法人園長会や新人研修会では、社会保険労務士が情報を提供している。 ただし、園長自身SDGsに関する認識は不十分であると考えており、インターネットのサイトから保育園で取り組むことができるエコ活動等の情報を入手する等、積極的に研究していることがわかる。更に、今後は保護者会に相談し、取組を提案することを検討している。 遵守すべき法令等を正しく理解し取り組んでいることは優れた点である。
II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。			
12	II-1-(2)-①	保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a 園長は本園の主任保育士を経て現職に就いており、その経験を通じて園の保育の現状を把握したり、職員育成を目的として園内の各種会議に出席している。 園長は日頃からクラスを巡回し、保育状況や子ども・職員の様子を把握している。子どもがワクワク感を抱いて活動に臨めるよう、「先を見越す保育」を目指して職員に助言している。 ノンコンタクトルームに保育に関する書籍を置き、職員が手に取って気軽に閲覧できるようにしている。コードモンカレッジ（コードモンアプリ内の研修動画）にて、職員が自主的に学ぶ仕組みを整えている。 また、園長は宗像市主催の“働き方改革セミナー”に参加している他、自ら、法人公開保育で姉妹園との共同研修を申し出て実行しており、姉妹園と協働して質の高い保育の実践を目指すなど、積極的に取り組んでいることは優れた点である。
13	II-1-(2)-②	経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a 園長は、長年の保育実績からなる優れた観察力と分析力、保育への探求心に長けており、日ごろより、保育団体の機関誌やメールマガジン等からも情報を得ながら、経営の改善や業務の実効性の向上に努めている。 今回の第三者評価受審にあたり、園長が事業計画を作成しており、重点課題を項目ごとにあげて、明確化し、解決までの計画を策定するに至っていることが確認できる。 また、ICT化により、全体的な計画から週案に至るまでの記録等の作成やドキュメンテーション、シフト管理等を万全な体制を築いている。 各種会議へも参画し、経営改善の指導力を発揮していることは高く評価できる。

II-2 福祉人材の確保・育成

II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。			
14	II-2-(1)-①	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	<p>b</p> <p>園長は、現在、職員数は充足しているものの、質の高い保育を行うために更に数人の確保が必要であると考えており、母体法人と検討している。</p> <p>保育園は女性が多い職場であり、男性保育士が活躍できる環境であるべきと考えている。</p> <p>法人の求人募集や就職フェアへの参加、看護師の求人については看護師ネットに登録するなど、求人に努めている。</p> <p>また、市の保育士獲得プロジェクトがあり、園長会でプロジェクトチームが養成校等に向いたり、保育フェアを開催している他、園長は市の担当課に、現行の住居手当に加えて、定住化や奨学金補助、研修内容のリスト化を提案するなど、行政と共同し人材確保に取り組んでいることがわかる。</p> <p>市保育協会の園長会と連携し、市の子育て・教育サイトでは、市内の認可保育園の紹介を動画配信しており、各園の特長や魅力がわかる工夫がある。</p>
15	II-2-(1)-②	総合的な人事管理が行われている。	<p>b</p> <p>法人の期待する職員像として「職員の合言葉：あいうえお」を明確にしている。</p> <p>今年度の4月から、法人で“私たちが大切にしていること”“お互いを認め合い支え合うこと”“目指す保育園”を1枚の書面にまとめ全職員に配付し、園長が職員会議で、“ありがとう”の感謝の心、“みんなちがってみんないい”と尊重し合う職場、“子ども、保護者、先生たちが幸せになれる保育園”である願いを表明しており、法人理念を基盤とした意思統一による総合的な仕組みづくりを行っていることが見てとれる。</p> <p>人事考課は行っていない他、移動処遇等の明確な基準もない。</p> <p>職員一人ひとりのワークライフバランスを考慮して、適材適所の処遇を心がけている。</p> <p>人事院勧告に準じて法人の人事管理規程を定めている。保育士1名がキャリアアップ研修受講中である。</p>
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。			
16	II-2-(2)-①	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	<p>b</p> <p>園では、10月以降に継続勤務意向調査を行い、来年度の働き方を尋ねるなど、職員の就業状況や意向の把握に努めている。</p> <p>有給休暇の取得状況も把握しているとともに、産前産後休業、育児休業、介護休暇などワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。長期休暇は今後のビジョンとして園長が検討中である。</p> <p>園長は“業務棚卸”を掲げ、業務を洗い出し見直すことで、簡素化により必要な業務をより手厚く行えるよう進めている。日、週、月、年と分けて、行うことの見直し、行う順番、優先順位等を検討することで、職員の業務の軽減に繋がるなど、働き方の意識を変換していく方針である。</p> <p>職員の休憩は、面談室を利用しており、ノンコンタクトタイムを取るよう促しているものの、職員への浸透が進んでいないことが、園長は気になっており、体制等を検討中である。仕事の持ち帰りは行わない約束である。</p> <p>ICT化に取り組み、コドモンを導入したことで業務の効率化を図っている他、福利厚生として、運動会後の食事会や忘年会を開催し、法人として園単位で、互助会も組織している。</p> <p>ただし、法人としての職員の悩み相談窓口は設けていないため、今後は組織内に設置するなど、職員が相談しやすいような体制づくりが望まれる。</p>

II-2-1 (3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。				
17	II-2-(3)-①	職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b	<p>職員面談は年2回の実施を理想としているが、現状は機会をとらえて口頭での実施である。園長の中には、第一回目の面談で目標・課題の明確化、中間面談で進捗状況の確認、最終面談で課題の達成状況の把握、次年度の目標設定という構想がある。</p> <p>今後、期待する職員像の実現に向けて個人目標やビジョンを書面にて設定し、目標達成期限や進捗状況を把握する仕組みづくりが望まれる。</p>
18	II-2-(3)-②	職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	<p>園では、年度当初の職員会議で“私たちが大切にしていること”“お互いを認め合い支え合うこと”“目指す保育園”を表明し、全職員に周知を図っている。</p> <p>職員の教育・研修に関して、職員一人ひとりのニーズに合わせたオンライン研修を計画しており、市保育協会や国、県、市主催の研修を紹介し受講を促している。</p> <p>法人内の研修も実施しているものの、年間の研修計画一覧表は作成していない。</p> <p>園長は、研修報告書内の所見にて研修内容の有効性を把握して評価、見直しを行っている。</p> <p>園長は、今後は各職員との個別面談にて本人の希望も踏まえ、教育・研修を実施したいと考えている。更なる取組に期待したい。</p>
19	II-2-(3)-③	職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b	<p>全職員の職務に応じて個々に研修案内をしており、勤務として受講している。階層職種別研修は職員の希望を重視している。園長から参加を奨励することもある。ワーク・ライフ・バランス上参加が難しい職員には機会を設けて参加できるように促している。</p> <p>法人内の研修も実施しているが一覧表はない。研修案内を職員への回覧という形でやっているのので、今後リスト化を期待したい。</p> <p>職員の専門資格は履歴書にて確認できている。</p> <p>今年度、対象となる職員個別に県・市のキャリアアップ研修年間スケジュールを作成している。</p> <p>園長は、OJT実施の中で指導する職員に進捗状況を聴取し、適切な指導助言を行っている。</p> <p>ただし、コロナ禍でコドモンアプリ内の研修動画が中心となっているため、今後は現状の課題を内部研修にて取り上げ、ヒヤリハットと事故の分別について理解・周知を図るなど、更なる保育の質の向上に向けた教育・研修の機会を確保していくことが望まれる。</p>
II-2-1 (4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。				
20	II-2-(4)-①	実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	<p>園では、“実習生受け入れについて”というマニュアルを整備し全職員に周知を図っている。</p> <p>実習生受け入れ窓口は、主任が担当しており、特に実習生が入るクラスの職員はマニュアルに目を通している。</p> <p>年間3、4人の実習生を受け入れており、大学から注意事項等の文書が届き、その内容に沿って実習を行っている。</p> <p>また、実習生の希望を聞き、クラスを決定しており、実習生自身が記録する実習日誌では担当クラスの職員が助言を記している。</p> <p>実習中に、大学から指導教員が訪れており、学校側と実習内容を共有し、実習期間中においても継続的な連携を維持し取り組んでいることが見てとれる。</p> <p>実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、取り組んでいることは優れた点である。</p>

Ⅱ-3 運営の透明性の確保

Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。			
21	Ⅱ-3-(1)-①	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b ホームページ上に園の理念や基本方針、保育の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報を公開している。 4月の園だよりやホームページに、1年間の苦情相談の有無を記載している。 市担当課窓口には園のパンフレットを設置している他、公民館、コミュニティセンター、スーパーマーケット、医療機関に園のお知らせを掲示している。 コドモンのホイシールでは、園の情報を誰でも閲覧することができる。
22	Ⅱ-3-(1)-②	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a 監査結果・経営上の情報をホームページ上で公開している。 内部監査は法人理事会で、外部監査は会計事務所で確認している。 小口現金等の扱いルールとして、備品購入伺いを職員から提出し、園長決済を行っている。また、3万円以上の購入については、法人の園管理者に伺いを立てて承認を得る他、10万円以上は、相見積もりを取るルールがある。 事務職員が園の経理を担当するなど、組織的に公正かつ透明性の高い経営・運営の仕組みがあることは優れた点である。

Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献

Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。			
23	Ⅱ-4-(1)-①	子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。 さつま芋の芋差しから収穫まで行っており、コロナ禍前は田植えから稲の収穫まで体験している。 卒園児の保護者が提供してた耕作地を利用し、収穫は地域の人たちやJA職員も参加している。 近隣の高齢者施設の訪問もコロナの感染状況をみながら再開する予定である他、散歩時はグランドゴルフで集う地域の高齢者と挨拶を交わしている。 市が毎年行っている企画“いきいき出前コンサート”では、子どもがプロの演奏家の演奏を鑑賞する機会となっている。 園内には、地域のイベント情報等を掲示して、保護者に地域における社会資源を推奨していることも見てとれる。 今後は、コロナ禍で途絶えている子どもたちの和太鼓演奏を地域で披露できるように検討中である他、地域の避難訓練に参加したいとも考えている。 地区で初めてできた保育園として、地域住民との交流を持ち、今後も更なる取組を計画していることは、優れた点である。
24	Ⅱ-4-(1)-②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a ボランティアの基本方針を整備している。 年度始めに市からボランティア受入れの問い合わせがあり、時期や行事内容の希望を提出している。それを基に市担当課が大学に募集をかけている。 市の募集にて訪れた学生ボランティアは、行事に参加し子どもと関わっており、夏祭りではお店屋さんの催しを行い、デイキャンプでは、クッキングやTシャツの染物を子どもが学生ボランティアと一緒に体験している。 ボランティアには、当日の所持品、服装などを電話で伝え、主任がタイムスケジュール、携帯電話所持についての注意事項等を伝えている。 中学校、高校の職場体験も問い合わせがあり、園内で協議し受け入れている。 市担当課との連携や地域の学校教育等への協力など、ボランティア等の受入れに対する取組は高く評価できる。

II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。			
25	II-4-(2)-①	保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	<p>a</p> <p>園に必要な社会資源、関係機関をリスト化し掲示するとともに電話帳としてリストアップしており、職員が活用している。 近隣の公園や公民館、体育館などの社会資源は、廊下に掲示しているお散歩マップから確認できる。 絵本や保育に関する図書については、園で図書カードを作成しており、保護者に貸し出ししている。 更に、園長が要保護児童対策協議会に出席しており、家庭での虐待等権利侵害が疑われるケースについて情報を収集している。 園として必要な社会資源は明確であり、関係機関等との連携も充実していることは、園の特長である。</p>
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。			
26	II-4-(3)-①	地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	<p>a</p> <p>地域の福祉ニーズを把握する取組として、園長は市の福祉計画を把握しており、園の方向性が合致しているかを査収している。 また、園長は市社会福祉協議会連絡会や市保育協会園長会にも出席し福祉ニーズを把握に努めている。 一時預かりは、子どもの様子から個別に対応したり、同年代のクラスで一緒に過ごしており、適宜対応し不安なく過ごせるように配慮している。 また、“子育て支援コアラ”と称する子育て支援計画では、年に3回、七夕飾りや運動遊び、節分の鬼のお面制作等のイベントを開催し、未就園児と保護者を招き入れており、その際に子育て相談にも対応している。定員は5人であるが、今秋は定員10人に増やしている。 “子育て支援コアラ”の案内は医療機関、商業施設、コミュニティセンター等にポスターを掲示しており、直接申し込みを受けている。 市の子育て支援担当課とも連携を図っており、地域の福祉ニーズ等を把握するための取組を行っていることは、特長である。</p>
27	II-4-(3)-②	地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	<p>b</p> <p>現段階では、地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動は実施していないが、園としてのビジョンとして検討中である。 フードロスの情報を基に、駐車場で販売し売上を寄付する企画があり、法人本部に相談し協力することとしている。 避難所としては近隣の公立小中学校があるものの、園でできることとして、乳幼児対象の避難所を構想している他、地域防災訓練にも参加したいと考えている。 また、コロナ禍で途切れている高齢者施設への訪問は、収束状況を見ながら再開する予定である。 要保護児童対策協議会に園長が参加しており、県の児童相談所や市の担当課、警察と連携を図り、週1回は声を掛け見守り支援するなど、子どもの命を守ることに努めている。</p>

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。

28	Ⅲ-1-(1)-①	子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	<p>全国保育士会発行の人権擁護のためのセルフチェックリストを使用し、年数回職員に実施しており、職員が自身の保育の振り返りを行っている。</p> <p>法人園長会では、全国保育士会の人権擁護のためのセルフチェックリストを用いた保育の振り返り報告書を用いて、内容を精査し職員に報告している。</p> <p>職員は性差への先入観による固定的な対応を行わないように配慮しており、本人の意向を尊重している。</p> <p>外国籍の保護者には、母国語の会話集をクラスに設置するとともに、本人にとって英語、カタカナ、ひらがななど、どの表記が分かりやすいかを把握して、サポートしている。</p> <p>3歳以上児クラスでは、デイキャンプを休んだ子どもについて、どうするかを子どもと話し、休んだ子どもを尊重する心を育てる具体的な取組がある。</p> <p>朝夕、土曜日は異年齢で過ごすことがあり、互いを認め、違いに気づき思いやる心が育つよう援助している。</p> <p>子どもを尊重した保育について職員のみならず子どもも一緒に共通理解するための工夫や取組は優れた点である。</p>
29	Ⅲ-1-(1)-②	子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。	b	<p>園では、子どものプライバシー保護について、職員会議で検討している。</p> <p>園内での着替えやシャワー利用時など、子どもの様子が見えることがあり、園長、職員が検討しているところである。</p> <p>子どもも一緒に簡易の衝立を作成する案もあり、さまざまなアイデアが聞き取れる。</p> <p>性教育は保護者である看護師が、職員対象に事前アンケートを取り、ボランティアで講習を行っており、職員は、講習は受けたことで対応方法を理解している。</p> <p>保護者間のSNSでのトラブルに繋がるような場合は、さりげなく聞き取って解決するよう努め、子どものプライバシー保護に配慮していることが確認できる。</p>

Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

30	Ⅲ-1-(2)-①	利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	<p>園ではホームページを公開しており、保育内容等の情報を提供している他、市の園紹介の動画は園の様子がよくわかり効果的である。</p> <p>園の利用希望者の見学は、一日に2人程度であるものの多い時は7、8人が訪れている。</p> <p>見学については主任が担当しており、日程調整を行いながら、時には園長、副主任が対応している。</p> <p>見学時はパンフレットを用いて保育内容を説明し、“子ども主体の保育”を伝えたり、和太鼓教室を紹介している。</p> <p>利用希望者に対して必要な情報を積極的に提供していることは特長である。</p>
----	-----------	----------------------------------	---	--

31	Ⅲ-1-(2)-②	保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	<p>入園が決まると、入園時説明会を開催している。 園長、主任が全体的な説明を行った後、各クラスに分れて担任が保育内容を伝えている。 また、その際に個別面談も行っており、保護者との関係形成に努めている。 保育料や副食費などの変更は、掲示するとともにコドモンを利用して周知を図っている。 保護者は、個人情報の同意書、コドモン利用同意書を提出しており、いずれの同意書にも写真掲載に関する同意も含んでいる。 入園時はクラスに慣れるように、職員が配慮して保育を行い、友だちとの繋がりを持てるように工夫している。 4月に新しいクラスでの個別面談を行っている。2月は一年間の総括を行うとともに思いを聞き取る時間であり、入園当初の保護者の子育てに関する悩みや相談がしやすい環境を設定していることは、高く評価できる。</p>
32	Ⅲ-1-(2)-③	保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	b	<p>転園時は、転園先から子どもについて問い合わせや連絡がある場合は対応しており、個人情報であるため園から積極的に情報を提供することはない。 卒園した子どもたちには、入学式に祝電を打ったり、小中学校を卒業する時に在籍を確認して、東京まで祝電を打った事例がある。 兄弟児が在園している場合は、顔を出したり、隣接する小学校の下校時に寄るなど子どもたちの様子を知る機会となっている。</p>
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。				
33	Ⅲ-1-(3)-①	利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b	<p>各クラスの職員は、日々の保育中の子どもの遊び込む姿や行事後に楽しかったことを絵に描いている様子から子どもの満足度を把握している。 降園時には、給食室のガラス越しに栄養士等に「美味しかった」と話しており、子どもが満足していることがわかり、職員にとっても嬉しい時となっている。 また、ホームページに、職員、保護者による園の評価を公表している他、コドモンのアンケート機能を利用して、保護者に保育についてアンケートを行い、意向の抽出に努めている。 職員は、送迎時に保護者と会話し、満足度を把握しており、行事についての感想や意見を基に次年度に生かしている。 園では、以前行っていた行事後のアンケートを、今後復活し、更に保護者の意見等を聞き取り、保育に反映する予定である。</p>
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。				
34	Ⅲ-1-(4)-①	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b	<p>苦情解決の流れや体制は、ホームページや入園のしおりなどに記しており、保護者に説明している。 意見箱は、保護者が投函しやすい場所として玄関前に設置している。 保護者からの相談内容は、所定のパソコンに保管しており、これまでに苦情はなく、毎年度ホームページ、園だよりで苦情がなかったことを公表している。</p>
35	Ⅲ-1-(4)-②	保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	b	<p>園では、保護者の相談に対応するために、面談室や遊戯室を確保している。 また、保護者の就業状況に配慮して、保育時間だけでなく、夕方以降や土曜日も含め、希望に沿って相談時間を設定している。 園は、クラス担任だけでなく、保護者が相談しやすい人に相談できることを園だより等に掲載していることが確認できる。</p>
36	Ⅲ-1-(4)-③	保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b	<p>保護者からの相談意見については、職員会議で周知し対応方法を全員で検討している。また、行事後にアンケートを取っていたが、現在は送迎時の会話から抽出している。 職員が受けた相談等は、すべて園長、主任に報告するルールがあり、極力その日のうちに回答するよう努めている。 今回の第三者評価で、対応マニュアルを職員も含めて確認し、見直しており、今後も引き続き定期的に見直しを行っていくことを期待したい。</p>

Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。			
37	Ⅲ-1-(5)-①	安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	<p>リスクマネジメントの責任者は園長である。 ベネッセの保育テラスアカデミー内にて、事故の応急処置について学んでいる。 また、今秋、消防署を招いて講習を予定している。 不審者対策としては、年間に数回自主訓練を行っており、1年に1回警察署の協力を得て、訓練を実施している。更に、園外での不審者対策として、電子ホイッスル、携帯電話を所持している。 また、行政や警察署から不審者情報が入るため、行政からの情報は玄関ホールに掲示し、保護者に周知している。 園では、コドモンの中にヒヤリハットを記録することができるため、職員が記入している。タブレットに書き込む時間が無い時には、メモでもいいこととしている。また、事務室には園の平面図があり、危険だと思う個所に付箋を貼って、解決する仕組みがある。 ただし、ヒヤリハットと事故の分別が曖昧であるため、今後は全職員の理解が必要である。取組に期待したい。</p>
38	Ⅲ-1-(5)-②	感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	<p>主任が主となって、感染症対策について職員に伝えている。 玄関ホールには、感染症の発生状況を伝えるボードを設置しており、毎日情報を更新して保護者に伝えている。 嘔吐下痢の対応策として、ビニール手袋や消毒等を整備している。 感染症予防対策として、次亜塩素酸ナトリウム水、空気清浄機を設置している他、冬場は加湿器も活用している。 ただし、感染症に関する研修は、時間を確保できない状況にある。今後の検討、取組に期待したい。</p>
39	Ⅲ-1-(5)-③	災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	<p>防災管理者である園長のもと、通報連絡班、避難誘導班、消火班、救護班、搬出班という役割を定め、毎月災害想定場面を変えて避難訓練を実施している。 園はハザードマップには入っていないものの、隣接する中学校がエリアに入っているため、土砂災害の危険があることを理解している。 防災マニュアルを危機管理マニュアル内に整備し、職員と共に確認している。 保護者には、コドモンの一斉配信や携帯電話で確実に伝える体制を整えている。 備蓄リストは整備している他、非常持ち出し袋を各クラスに設置していることが確認できる。 今後地域での総合防災訓練に参加したいと考えている。</p>

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。			
40	Ⅲ-2-(1)-①	保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	b 第三者評価受審にあたって、現行の標準的な実施方法を見直し、文書化している。 運営面については園長が策定し、保育現場の内容については職員の意見を主任が取りまとめている。 “望ましい保育士としての資質や態度”を明示する他、保育場面毎に人権に配慮した姿勢を明記している。 園では、子ども一人ひとりの育ちに応じ“流れる保育”を実践しており、日常的に園長、主任、リーダー等で理念、マニュアルに基づいた保育の実践状況を確認している。 今後は、更にマニュアルの精度を上げるために検証し、現状に合致していない内容の精査が必要と思われる。取組に期待したい。
41	Ⅲ-2-(1)-②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b 法人全体でのマニュアルや重要事項説明書をファイリングして職員入職時に渡し、内容を把握できるように工夫している。 標準的な実施方法整備後、クラスで検証した結果、見直しが必要な事項があった。保護者からの要望をもとに、催事の際の出入り口の流れを変更したことがある。 今後職員の声を抽出して随時検討していくと共に、定期的な見直しや改定の仕組みづくりを期待したい。また、改定時には改定年度を記載することが求められる。
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。			
42	Ⅲ-2-(2)-①	アセスメントにもとづく指導計画を適切に作成している。	b 指導計画作成は主任が責任を担っており、児童票（個人ファイル）は、市の共通様式を使用している。 現状の個人ファイルには、保護者からの「こんな子に育ててほしい」という思いや保育に対する要望を記載する欄がない。4月進級後の子どもの様子を保護者面談で確認し、要望などを聴取する仕組みが整っており、保護者の意向を反映する指導計画となるための、検討、取組が望まれる。 園では、栄養士や前年度の担任等、その子に関わる職員が都度集まり、保育の方向性を検討している。家庭事情に関わることや障がいについての話し合いには主任も同席している。 コドモン内で全児童の発達記録を年3回確認し、記載しており、この記録は児童要録にも利用している。 個別の指導計画は0歳児から2歳児まで作成し、毎月見直しを行っている。特別な配慮が必要な子どもには継続して支援計画を作成している。
43	Ⅲ-2-(2)-②	定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a 2歳児までは毎月個別の指導計画を見直しており、まずはクラス内の全職員で、その後園長、主任が確認している。特別な配慮が必要な子どもには、年2回の巡回相談時に見直しを行っている。緊急を要すべき事態が発生した時には、その都度、本人に関わる全職員が参画し指導計画を見直している。 また、個別にオムツ使用時の配慮する点などマニュアルに沿って、評価、見直しを行っていることがわかる。 3歳以上児の指導計画は、クラス単位であり、個別の発達記録は職員がコドモンに記入している。 発達記録の変更点等も、コドモン上で常勤、非常勤、フリー職員を含めた全職員が確認できる仕組みがある。 指導計画の実施状況の評価と計画の見直しに関する手順を組織として定めて実施していることは優れた点である。

Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。			
44	Ⅲ-2-(3)-①	子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	<p>b</p> <p>コドモン内で、指導計画、月案、週案、日案、発達記録及び評価反省等、職員間で共有している。 指導記録はクラスリーダーが作成し、日々の記録は正規職員、非常勤職員に関わらず、職員全員で分担して記録している。 記録内容や書き方について指導する必要がある場合は、クラスリーダーが主任に伝えて指導を依頼している。園の運営に関わる内容は、主任が直接指導している。 園では、iPadが支給されていない職員に情報が伝わりにくいこと、保護者の閲覧状況に差異があること、コドモンカレッジを視聴する時間の確保を課題として捉えている。今後の検討・取組が待たれる。</p>
45	Ⅲ-2-(3)-②	子どもに関する記録の管理体制が確立している。	<p>a</p> <p>法人で個人情報管理規程を整備している。文書管理規程も確認でき、個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が定められている。 職員のパソコンや情報記録媒体等の持ち帰りを無くし、職員間での保育内容のLINE配信禁止としている。パソコンセキュリティを法人で整備している。 退職後の守秘義務も含む誓約書も交している。 園だより、ドキュメンテーション、ホームページ上の個人情報取り扱いについては、入園に際して“個人情報に関する取決事項の確認通知受領書兼同意書”、“ドキュメンテーション承諾書”を保護者に渡し、記名捺印を得ている。 子どもに関する記録の管理体制が確立していることは、高く評価できる。</p>

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成			
項目	評価	コメント	
46	A-1-(1)-①	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	<p>b</p> <p>全体的な計画は、法人の園長会、主任会で作成しており、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨を具現化した法人理念・基本方針を核として作成されていることが確認できる。園では法人の全体的な計画をもとにして、年間計画や行事等に職員の意見を取り入れ、園独自の計画を作成している。 現在は、法人全体での全体的な計画であるため、園長は今後、地域との連携など、園の特色がよりいっそう明示された計画を策定をしたいと考えている。園としての更なる全体的な計画となるよう期待したい。</p>
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開			
47	A-1-(2)-①	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	<p>a</p> <p>室内の温度湿度は、熱中症対策として計測器（みはりん坊）を設置し気象庁の暑さ指数を確認の上、エアコン、サーキュレーター、天窓カーテンを取り付けるなど室温調節を行っている。 寝具は毎週家庭に持ち帰り衛生管理に徹している。 勤務シフトによって、園全体の清掃、消毒等を行い、消毒液の補充や遊具の点検も実施している。 トイレトレーニング中は、トイレを待つベンチは座る都度、消毒している他、毎日トイレ掃除により清潔な状態を保持している。 子どもが落ち着ける場所を確保しており、マットや段ボールの衝立、家具や玩具の配置など職員の工夫が見てとれる。 保育方針には、“安全で楽しい環境”を明記しており、職員は保育環境のテキストを参考に等、全体で保育環境の整備に注力している。 園内各所に大小の窓を設け、保育室にも隣の部屋が見通せる窓がある等、特色ある空間となっている。トイレ便座に座った時にも、小窓から隣の部屋の置物人形がトイレ側を向くよう配置しており、子どもが喜び、ホッとできる環境づくりを心掛けていることが窺える。 職員のさまざまな工夫により、随所にみえる“子どもの視線”に合わせた保育環境は特筆すべき点といえる。</p>

48	A-1-(2)-②	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a	<p>職員会議では、保育の理念を復唱し、一人ひとりの子どもの受容をイメージしている。家庭での一人ひとりの子どもの様子はコードモンで確認できるため、睡眠不足や喫食状況から、午前睡や食事の順番を早めるなど職員の援助に役立っている。</p> <p>0歳児は、4月から環境が変わり甘え等の欲求が強く、おんぶや抱っこで対応しながら、家庭に近い環境となり安心できるよう関わっている。</p> <p>フリーの職員が各クラスにスムーズに入り効果的に援助しており、これは、コードモンによるICT化で職員間の情報共有がうまく機能している結果といえる。</p> <p>職員研修では、ポジティブ変換する言葉遣いについて学ぶ機会を設けているとともに、日々“美しい言葉”の合言葉を念頭に一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っていることは優れた点である。</p>
49	A-1-(2)-③	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a	<p>1歳児の後半からパジャマへの着替えや、朝の体操ではラインにそってきちんと並ぶなど規律に沿った生活ができるよう支援している。</p> <p>2歳児では、強制することなく、子どもの主体性を尊重する方針から、一人ひとりが好きな時間に食事をとるといった“流れる保育”を導入しており、箸の持ち方や「いただきます」の挨拶など、職員と子どもが個別に対応することが多い。その中でも、一斉に座っている時間を利用し、クラス全体で挨拶することもある。</p> <p>トイレトレーニングは、トイレに興味を持ち、おまるに座ることができるようになり、成功体験が多くなった頃を見極め、保護者にパンツの準備を依頼している。パンツを履くかどうかは本人の意思を尊重して援助している。</p> <p>その他、基本的な生活習慣においては、入園のしおりに4、5歳児からの制服の良いところとして、着替えることにより「保育園に来たんだ」と気持ちを切り替え、着脱が身に付くことを明記している他、生活の中で挨拶や順番を守るなど、その大切さを子どもが理解できるよう働きかけており、基本的な生活習慣の習得に向けた環境の整備、援助に努めていることは園の強みといえる。</p>
50	A-1-(2)-④	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	<p>2歳児は、朝の会で職員が、子どもたちに「やりたいこと」を聞いており、熱中症の危険がある屋外での遊びは、子どもたちの方から切り上げることを選択するなど、自主性が育っていることが確認できる。</p> <p>午睡後は職員と一緒に、子どもも布団をたたみ、押し入れに持って行くなど自発的な取組を援助している。</p> <p>表現活動では、子どもが大きな模造紙に全員で何色ものクレパスを使って自由に思い切り描くなど、さまざまな体験ができるよう工夫している。</p> <p>3歳以上児は、毎月交通安全指導を実施し、社会的ルールを身に付けている他、田植え見学时での地域住民とのふれあい等、社会体験が得られる機会も設けている。</p> <p>5歳児では当番活動として、トイレの掃除や自分の荷物は自分で管理できるよう職員がサポートしている。</p> <p>園では、子ども一人ひとりを尊重する保育を根幹に、主体的な保育である“流れる保育”を実践していることから、調査時の見学においても、子どもの様子に「落ち着き、満たされた明るい表情」が見てとれる。日々の職員の関わりによって育まれる子どもの主体的な活動は、園の特長といえる。</p>

51	A-1-(2)-⑤	乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	<p>0歳児クラスには、朝早い子どもは7時30分、通常は8時30分に登園している。9時にミルク、検温等を行った後、一人ひとりの育ちに合わせて、初期、中期、後期、完了期と分け、給食室に離乳食を受け取りに行き、順に提供している。午前睡、給食、午睡、おやつの順で、本人の寝起きや様子を見ながら、長時間過ごすことに適した生活を支援していることが見てとれる。</p> <p>保護者とはコドモンアプリを利用して、家庭での子どもの様子を把握し、園での様子も伝え連携を密にしている。</p> <p>クラスはコーナーに分かれており、寝転んだりできる畳のコーナー、玩具で遊ぶマットのコーナー、テーブル・椅子のコーナーを設けている。</p> <p>玩具は、口に入れても安全なもの、投げても安全なものに配慮しており、0歳児の特性を把握し、職員間で連携し支援している。</p> <p>職員は、視覚的にも興味を持てるよう、子どもがワクワクする環境を整えているとともに、音に配慮し、声掛けの音量にも配慮するなど、0歳児が過ごしやすい環境を整えていることは、高く評価できる。</p>
52	A-1-(2)-⑥	3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	<p>1歳児クラスは、音楽が鳴ると体操するなど一日の流れを子どもたちが理解して過ごしている。</p> <p>絵本コーナーや運動するコーナー、座って遊べる空間など保育環境を職員間で検討している。中でも、職員による手作り玩具が多く、小さなペットボトルの中に膨らむボールを入れて、振って感触を楽しんだり、牛乳パックで作ったコの字型の椅子の裏面には、滑りやすいようフェルトを貼っている。また、小さくカットした人工芝やスポンジを床に置き、足の裏の感触を楽しめるように工夫している。</p> <p>2歳児クラスでは、使用しない玩具等はカバーを掛けており、子どもの気が散らないよう配慮している。</p> <p>職員は、子ども一人ひとりの手形足形を基に、動物をモチーフにして制作するなど、子どもが空想を膨らませ想像性や発想力を育むことを大切にしていることは特長である。</p> <p>一人ひとりの子どもの状況に応じ、コドモンを活用しながら、保護者との情報共有に努め、養護と教育が一体となった保育を展開していることは園の強みといえる。</p>
53	A-1-(2)-⑦	3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	<p>3歳児は、ワクワクと興味を引き出せるよう声を掛けており、活動に気が進まない子どもには無理強いせず、落ち着ける環境をつくり、その後、みんなの見える場所に戻るなど、集団での活動に取り組んでいる。また、3歳児から体操教室が始まっており、跳び箱のジャンプルールなど遊びの幅が広がっている。</p> <p>4歳児は、4月から友だち同士のぶつかりが見られたため、少人数で遊べるスペースを確保していたところ、現在では一緒に遊べるようになり空間も広がっている。昆虫コーナーではカブトムシの飼育や図鑑など昆虫好きな子どもが集っている他、パネルシアターコーナーでは手作りチケットがあり、映画館に見立てているなど、気の合う友だちと関わりを深めながら楽しめる保育環境を設定していることがわかる。</p> <p>英語教室は4歳児から始まり、他国の言葉や文化の違いに触れ、友だちと楽しみながら英語に親しんでいる。</p> <p>5歳児は、集団で一つのことをやり遂げる活動が増え、和太鼓は外部講師による練習が月に1回あり、その日以外は担当職員が毎週練習するとともに、声出しは毎朝行っている。5歳児が園での年長である自覚を大切に、やる気を引き出せるよう心掛けている。</p> <p>3歳以上児の保育において、集団の中で少しずつ社会性を学び、心の成長、自己発揮と繋げ、保育の内容や方法に配慮していることは特筆すべき点といえる。</p>

54	A-1-(2)-⑧	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	<p>現在、園には配慮の必要な子どもが多く、うまく表現できない子どもは手を出したりするため、職員が気持ちを受け止めて援助している。</p> <p>障がい児には、本人が落ち着ける場所を設定しており、気持ちが落ち着いてから友だちの中に戻っている。</p> <p>個別の支援計画は、複数の職員が関わり作成しており、様子に変化があった時には保護者に伝え、家庭で不安がないように配慮している。</p> <p>保護者全体に障がい児保育について正しい情報を届けている。</p> <p>発達支援センター療育施設に通う子どもについては、施設から園に訪問し様子を共有している。また、クラス担任と園長、主任は、対応が難しい場合は話し合う体制を整えている。</p> <p>園では今後、対象児が入園したことを想定して、安心できるようにエレベーター設置を検討中である。</p> <p>障がいのある子どもが安心して過ごせるよう、職員、園長、主任が体制を整えて援助していることは、優れた点である。</p>
55	A-1-(2)-⑨	それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	<p>園内での朝から夕方までの在園時間は、子どもにとっては長時間であるため、職員は本人がゆったりと過ごせるように援助している。</p> <p>延長保育は全員が1歳児クラスに集って過ごしており、職員は乳幼児もいるため、危なくないように見守っている。</p> <p>午睡ができていない子どもは、延長保育中に寝転んでのんびり過ごしている。また、補食は家庭での夕食に影響がないよう、配慮している。</p> <p>延長保育の人数が少なくなると、絵本スペースを利用し過ごす等、環境を整えて援助していることがわかる。</p>
56	A-1-(2)-⑩	小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b	<p>小学校以降の生活を見通し、4歳児の後半から午睡を無くしている他、私語をせず、人の話を聞くことができるように指導し、文字に興味を持ち始めたら疑問に答えている。</p> <p>要録は、市の様式を用いており、クラス担任が作成して提出している。</p> <p>コロナ禍で小学校との交流体験など中断していたため、今後は、コロナの収束状況をみながら、小学校運動場までの散歩からスタートすることを計画している。配慮を必要とする子どもについては、就学相談も実施している。</p> <p>また、卒園前はクラス担任が小学校を訪問し、子どもの様子を伝える予定である。</p>

A-1-(3) 健康管理			
57	A-1-(3)-①	子どもの健康管理を適切に行っている。	<p>b</p> <p>子どもが保育中に体調を崩した際は、事務室横を静養室として使用しており、簡易ベッドを使用することもあり、安静にできるようサポートしている。働いている保護者に配慮し、できるだけ園でみているが、熱が37.5℃に上がるのを目安に保護者に伝え、迎えを依頼している。</p> <p>SIDSについては、0、1、2歳児クラスでチェックしており、0歳児は5分置き、1歳児は10分置き、2歳児は15分置きに様子を確認している。</p> <p>園では、保健計画を策定しており、予定に沿って行っていることがわかる。</p> <p>健康管理に関するマニュアルは各クラスに設置している。ただし、全職員への周知は課題となっている。子どもの健康管理がマニュアルを基に行うものであることを全職員が理解できるよう、取組に期待したい。</p>
58	A-1-(3)-②	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	<p>b</p> <p>健康診断は、結果を保護者に報告しており、時に喘息など園医が気になることは、保護者に伝えている。</p> <p>また、肥満度数を図り、保護者に報告しているものの、家庭での改善は難しい状態である。</p> <p>コロナ禍で中断していた歯磨き、うがいは、収束後に再開する予定である。</p> <p>診断結果から再検査や受診が必要な場合は、保護者に伝えている。</p>
59	A-1-(3)-③	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	<p>b</p> <p>慢性疾患として喘息が持病である子どもがおり、保育中に変化がある時は職員が気を付けており、保護者に報告している。</p> <p>エピペン使用に関して、園で学ぶ機会を設けたいと考えているところである。</p> <p>入園時には、栄養士も同席し日頃食べているチェックリストを付けて状況を確認しており、卵、ナッツ、キウイ、納豆等、個別のアレルギー食材の除去に対応している。</p> <p>アレルギー食に関しては、毎日給食室とクラス担当職員で確認しており、除去食がない日は、他の子どもたちと同じテーブルで食事している。</p> <p>また、除去食がある場合は、食器やトレーの色、テーブルを別にして安全を確保している。クラス内では職員が誤配しないように、給食室から文書を配付するとともにプレートにマグネットでわかるように工夫している。</p>
A-1-(4) 食事			
60	A-1-(4)-①	食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	<p>a</p> <p>食育の一端として、ジュース類の砂糖の含有量をカードにイラストを表し、子どもが興味を持って見ることができており、甘いジュースだけでなく、茶や水を飲むことへの意識に繋がっている。</p> <p>給食が終わった後に、子どもが給食室を訪れて感想を伝えている他、時間がある時には栄養士がクラスをまわって、会話している。</p> <p>年長クラスでは、子どもがピーラーや包丁を使って調理をしたり、栄養士が食事の大切さ、食材の栄養素などの説明をしている。また、大学芋、かぼちゃや米作り、精米体験など、食に関して豊かな経験ができるよう食育計画を作成し、取り組んでいる。</p> <p>園では、コドモンで子どもの登園状況を確認して調理している他、献立を毎月掲載し、保護者に知らせている。</p> <p>3歳未満児には、スプーンとフォークのセットを渡しており、本人が食べたい食具を使っている。</p> <p>子どもが食事を楽しむことができるさまざまな工夫は高く評価できる。</p>

61	A-1-(4)-②	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a	<p>毎日の子どもの食べる量や嗜好をクラスの職員がコドモンに記録しており、給食室では、現状を把握している。</p> <p>園で栽培するカボチャやトマト、さつまいもなどの食材を使って、子どもたちが興味を持っている。米は精米済と精米していないものも届いており、玄米から米になることを経験している。</p> <p>全国の郷土料理として、おやつにずんだ餅を提供したり、地元のおきゅうとを提供している。</p> <p>卒園前はリクエストメニューに応えている。</p> <p>行事食は七夕寿司や月見の時には月見団子や月見を模したカレー、クリスマスメニューなどを提供している。</p> <p>子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供していることは特長である。</p>
----	-----------	---------------------------------	---	--

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭との緊密な連携

62	A-2-(1)-①	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	<p>園では、コドモンにて家庭との情報交換を行っている。また、個別面談を実施し、保護者の子育てに関する悩みや意向を把握し、園の保育の意図や大切にしていることを伝える機会となっている。</p> <p>保護者からの相談や問い合わせへの回答は、園で検討しクラス担任が行っている。</p> <p>コロナ禍でさまざまな行事が中断していたものの、5類への移行を受けて、夏祭り、運動会等の行事を再開し、保護者が子どもの成長を知る機会となるよう、工夫している。</p> <p>子どもの成長を保護者と共有しながら、連携を図っていることは優れた点である。</p>
----	-----------	-------------------------------	---	---

A-2-(2) 保護者等の支援

63	A-2-(2)-①	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	<p>お迎え時に子どもの一日の様子からワンエピソードを伝えている。保護者の個人面談は年度始めの4月と終わりの2月に行っている他、日常的に相談等に対応しており、内容は保育ノートや伝言ファイルに記入し、主任、園長等と情報を共有する仕組みがあることがわかる。</p> <p>保護者からの相談は内容によっては、別の日を設けたり、他の保護者や子どもに知られないよう場所を確保して配慮している。</p> <p>園の特性を生かした保護者への支援として、離乳食の相談は栄養士が対応している。また、市子ども家庭センターや宗像医師会病後児デイケアルーム、ひとり親家庭サポート等のお知らせを玄関に設置していることが確認でき、保護者が安心して子育てできるよう支援していることは、高く評価できる。</p>
64	A-2-(2)-②	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b	<p>園では、虐待等権利侵害の疑いのある子どもや保護者を把握し、行政や警察と連携を取っており、園としての連絡は園長が担っている。</p> <p>職員は、毎日子どもの心身の状態を見逃さないように注視している他、ネグレクトの疑いについては、保護者との会話を通して状況の把握に努めており、まずは信頼関係を築くことを大切にしている。</p> <p>園では、職員が疑いに気づいた時には迅速に主任、園長に報告するルールがある。</p> <p>職員が子どもから聞き取った情報もあり、保護者への声掛けについて、誰が対応するかなど、配慮している。</p> <p>園では、子どもの命を守るために、早期発見、早期対応に努めている。</p>

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り			
65	A-3-(1)-①	保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	<p>a</p> <p>日々の保育実践記録の振り返りはコドモン日誌に記録している。個人の成長記録はアプリ内の連絡帳に記入している。保護者への連絡欄の他、職員のみが閲覧できる欄も備えており、日々の振り返りを実践している。</p> <p>コドモン内の全児童の記録は全職員で共有できる。クラス内では記録をもとに子どもの育ちや活動の様子をふり返って検討している。</p> <p>法人で職員の自己評価を実施している。また、職員が園評価と自己評価を行いホームページ上で公表するなど、保育実践の改善や専門性の向上に努めていることは特長である。</p>